藤屋 侃士
（下松市辛ケ丘）

コロナ禍のロンドン・ナショナル・ギャラリー展

コロナ禍において、多くのイベントは中止や延期になってきた。10月1日からは、GoToキャンペーンに東京も加わり、コンサートや美術展などの規制も緩和してきた。

今年の3月から10月に予定されていた「ロンドン・ナショナル・ギャラリー展」。世界初開催で、東京の国立西洋美術館と大阪の国立国際美術館を巡回。6月から日時指定をした入場制限を設けて開催されている。東京は10月18日まで。大阪展は11月3日から来年の1月31日までとなっている。

人気の高い企画展に行くと、人の頭を見に来たのかと思うほど混雑していて、それだけで疲れてしまう、という経験をされた方も多いだろう。混雑緩和のための入場制限はもちろんコロナウイルス感染予防だが、一生に一回かもしれない名画の観鑑には好ましい方法と思ったりする。

２０１３年末から年始にかけて、妻と長女と３人でロンドンを旅した時に、ナショナル・ギャラリーも訪れた。

ロンドン中心部、有名なトラファルガー広場に隣接するナショナル・ギャラリー。世界でも有数のコレクションを誇る。

ナショナル・ギャラリーの開館は１８２４年。２００年近い歴史がある。ありとあらゆる所蔵品のある大英博物館に対し、絵画に特化しているのでギャラリー（美術館）と表記されている。

ロンドン・ナショナル・ギャラリーも大英博物館と同じく、無料である。仕事で毎年夏にロンドンに行く長女が「教科書に出ているような有名な絵を目の前で観ることができる」というので、ゴッホのひまわりを目当てに行った。

このギャラリーは、すべての人に芸術鑑賞と教育の機会を提供している。展示室には十分な広さがあり、中央にソファーが置かれ、座ってゆっくり鑑賞できる場所もある。美術学生らしき若者が熱心に模写に励んでいる。フラッシュをたかなければ写真も自由に撮れる。

掲載している写真はロンドンのナショナル・ギャラリーの「ひまわり」の絵の前の様子。誰もが間近で自由に名画を鑑賞できる素晴らしさに感服したことを思い出す。

コロナ禍での東京と大阪での「ロンドン・ナショナル・ギャラリー展」。入場制限対策は、本場に近い状況になったかもしれない。禍（わざわい）転じて福とならんことを願いつつ。

会期変更情報が入った東京展のチラシ

完全ガイドブックの紹介されているナショナル・ギャラリーの外観